



収穫を待つリンゴの「ふじ」。北田健さんと家族が丹精（たんせい）こめたリンゴは、どこにも負けないおいしさです＝盛岡市・黒川地区



「とれたて」もおいしいリンゴが出回っていますね。本州で一番最初にリンゴのさいばいが始まったのは盛岡市だといわれていて、1世帯あたりのリンゴ消費額が全国1位なんです。リンゴ生産がさかんな黒川地区をたずね、さいばいの苦労を聞きました。

いとしも立派なリンゴ

黒川 地区は盛岡市の南東部に位置し、北上川に向かって東から西にゆるい斜面が広がっています。北田健さん（55）は、およそ4分の畑で二十数種類のリンゴを育てています。一日が長時間当たるので、リンゴに向いている土地です。70年、80年作り続けている農家もあります」と話します。

リンゴ農家にとって怖いのは台風などの強い風です。こどもも何度か強風がふき、傷がついた実もあるそうです。「リンゴの木には黒川地区はもう来年の芽がついてるんです。この芽と実がすれてしまうんです」と教えてくれました。

北田 さんの畑には、もうすく収かくをむかえる「ふじ」が実っています。「ふじ」が実つてきたら、毎年立派な実をつけるとは、じつは冬から準備を進めているからです。正月明け早々、いらぬ枝を切る「剪定」という大事な作業が始まります。畑にある2千本以上の木は、「二本一本性格がちがいます」と言い、それぞれの木に合わせて枝を落とします。

盛岡・黒川一つ一つに手間と愛情

す。来年以降のことも考えて枝を落とすそうです。リンゴは1株に五つの花がさきます。そのままと小玉の実になるので、中心の花以外は取ってしまいます。実がついても全部大きくするわけではなく、よけすべりの実だけを残します。よğunな葉をつみとったり、病害虫を防止したり、よつやく大きなリンゴが実ります。北田さんは「8月の天気が悪くて心配しましたが、えいきょうありませんでした」とむねをなで下ろします。

生産量では他の県におよばなくても、岩手のリンゴは折り紙のようにおいしさです。一個一個にたっぷり愛情をこめたリンゴを、たくさん味わってください。

(2017年11月14日付・岩手日報こども新聞1面)

1. 地図帳を使って、リンゴの生産量ベスト3を調べましょう。

1位 =

2位 =

3位 =

調べた年 () 年)

2. 盛岡市は、リンゴについて、どんなことが全国1位ですか。

3. 盛岡市黒川地区で、リンゴの生産がさかんなのは、どうしてでしょう。

4. リンゴは1株に五つの花がさきますが、中心の花以外は取ってしまいます。それは、どうしてでしょう。

5. 北田さんは二十数種類のリンゴを育てているそうです。お店に行った時、売られているリンゴの種類を調べてみましょう。

年 組 名前